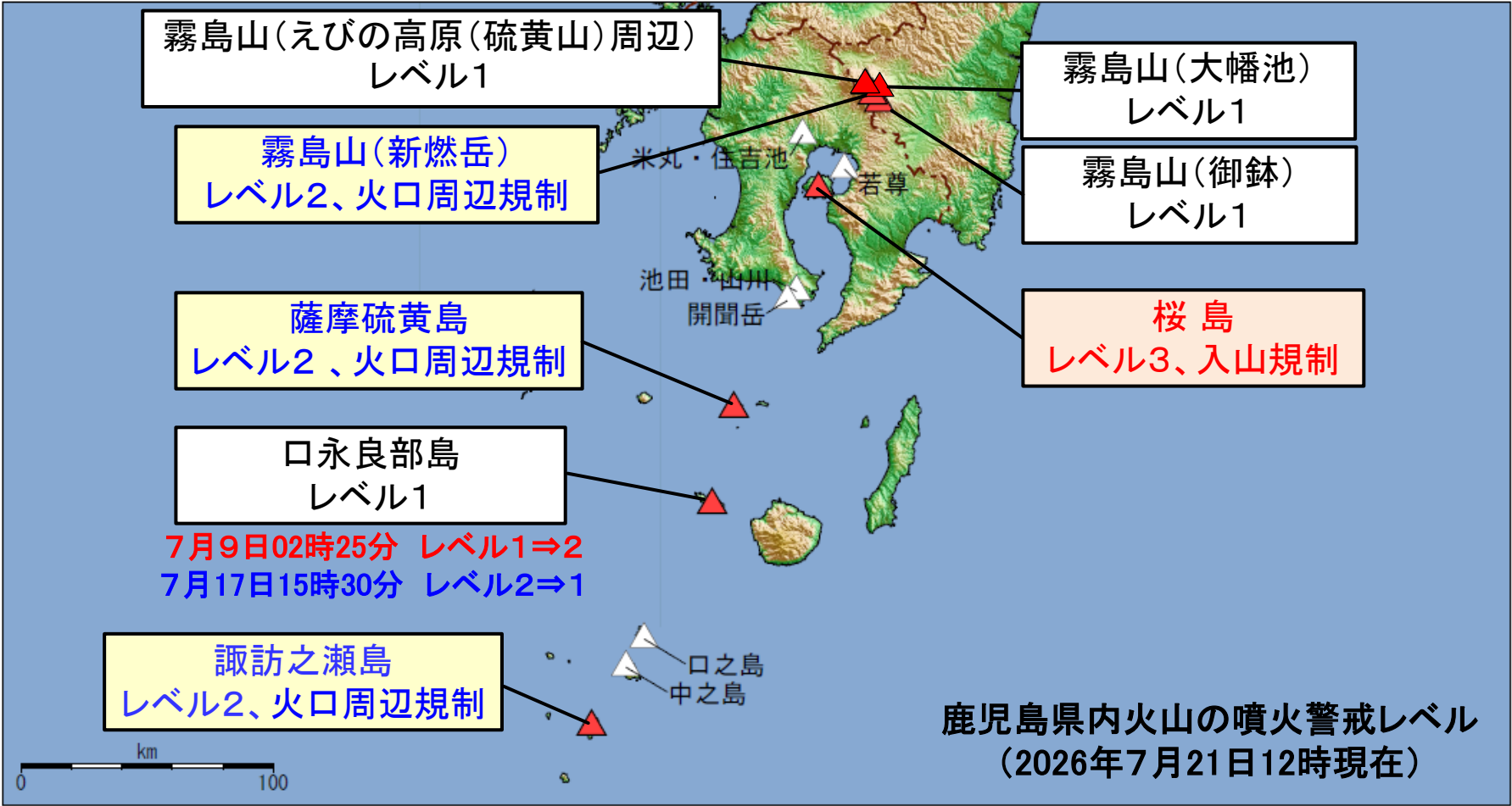


鹿児島県の火山活動概況

2026年6月～7月16日

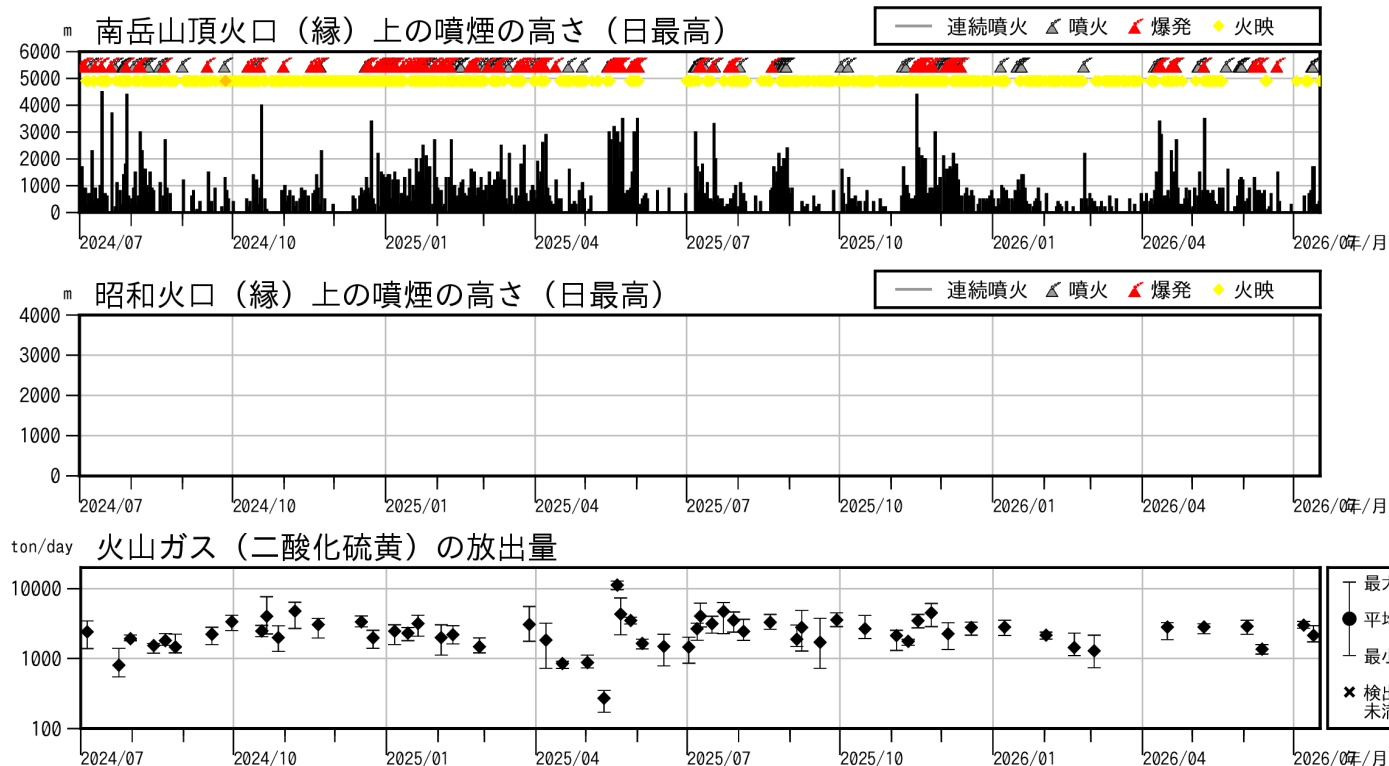


桜島 噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒範囲：火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

6月以降の主な状況

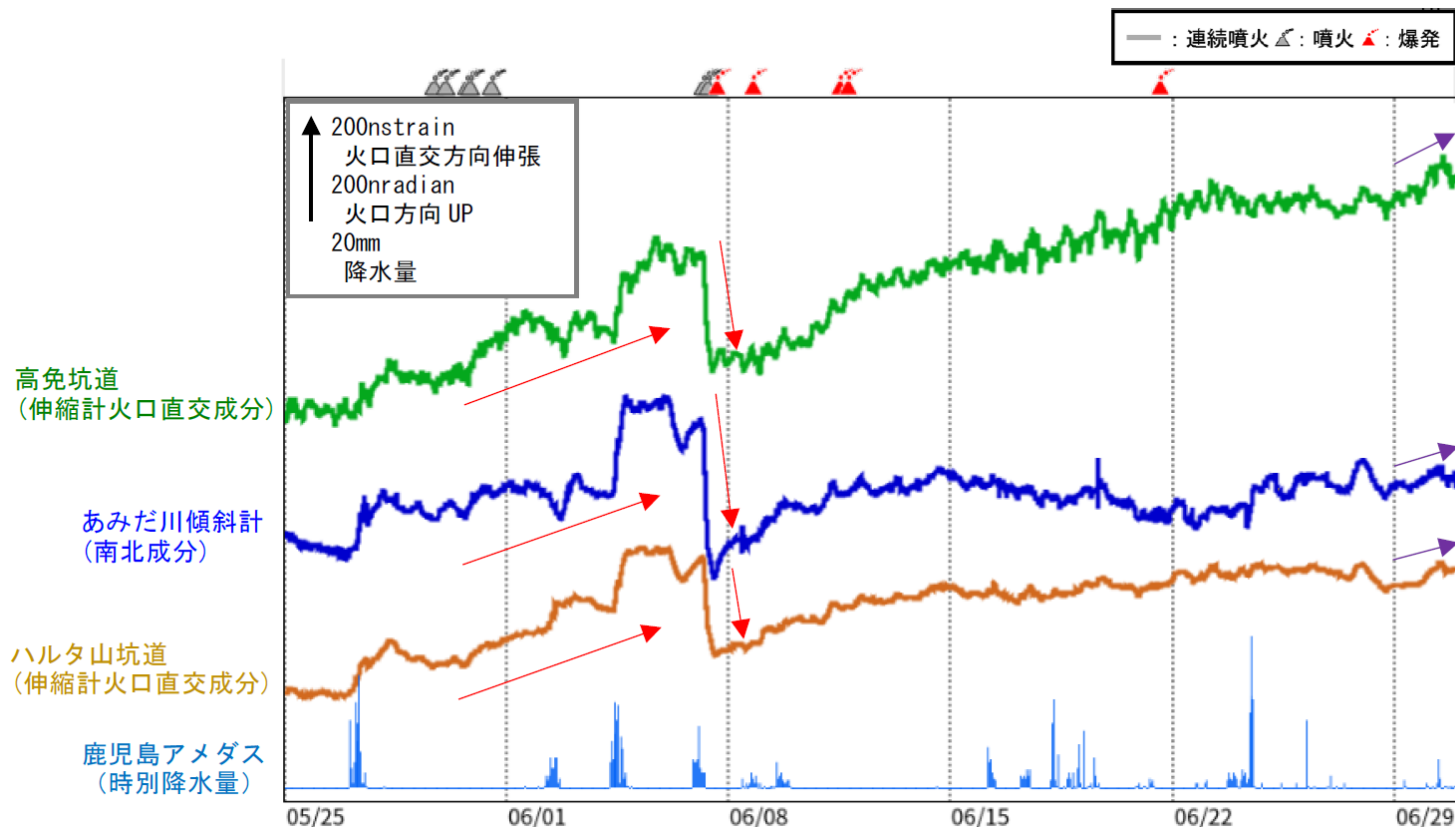
活動評価	始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる
噴火活動	[南岳山頂火口] 噴火回数 7月(16日まで):4回(うち爆発:0回) 6月:噴火7回(うち爆発:5回) 7月12日16時57分、7月13日10時52分の噴火:噴煙は火口縁上1700m [昭和火口]（ごく小規模含め）噴火は発生せず
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は1日あたり平均1400～3000トンと概ね多い状態



6月以降の主な状況

傾斜・伸縮

桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、5月30日頃から山体の膨張（隆起）を示す地殻変動が観測されていたが、6月7日に南岳山頂火口で発生した一連の噴火に伴い、変動は概ね解消された。6月29日頃から7月1日頃に再び山体の膨張（隆起）を示す地殻変動が観測された（図中矢印）。



桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況（2022年5月25日～6月30日）

※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。

※図の作成には、京都大学のハルタ山坑道、高免坑道の観測データを使用している。

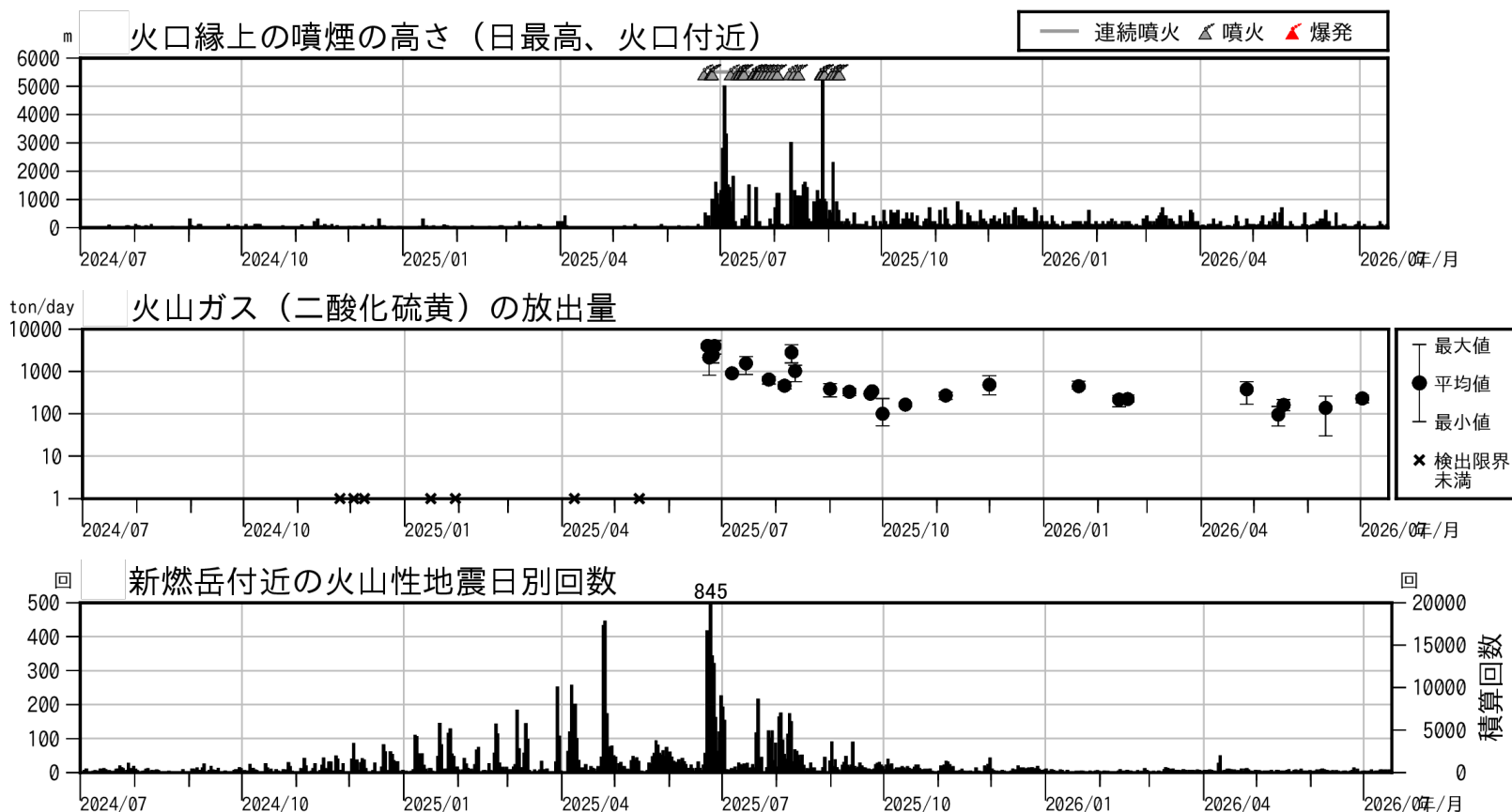
※あみだ川観測点は山頂火口域のほぼ北に位置していることから、傾斜計南北成分の南側が上がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示している

警戒範囲:火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

新燃岳 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2025年10月17日11時00分発表)

	6月以降の主な状況
活動評価	火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり数百トンの状態が継続、火山活動は高まった状態で経過
噴火活動	2025年9月8日以降、噴火は観測されていない
火山ガス	火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり平均100~200トンとやや多い状態
震動現象	火口直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過



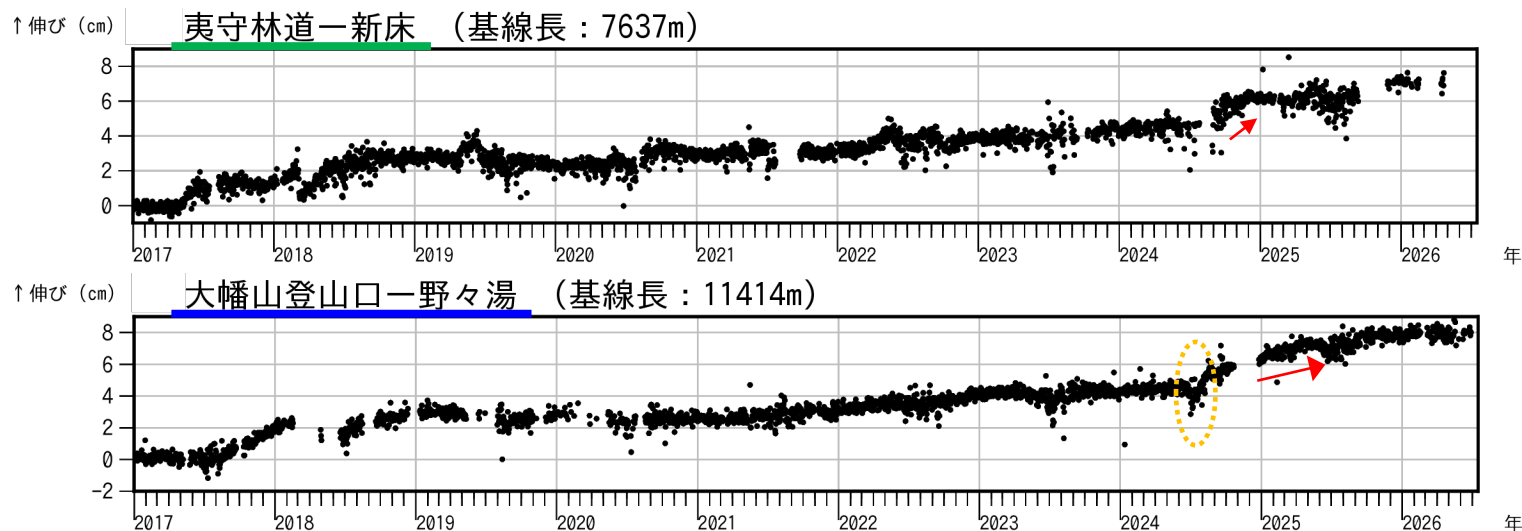
新燃岳 火山活動経過図(2024年7月~2026年7月16日)

新燃岳 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2025年10月17日11時00分発表)

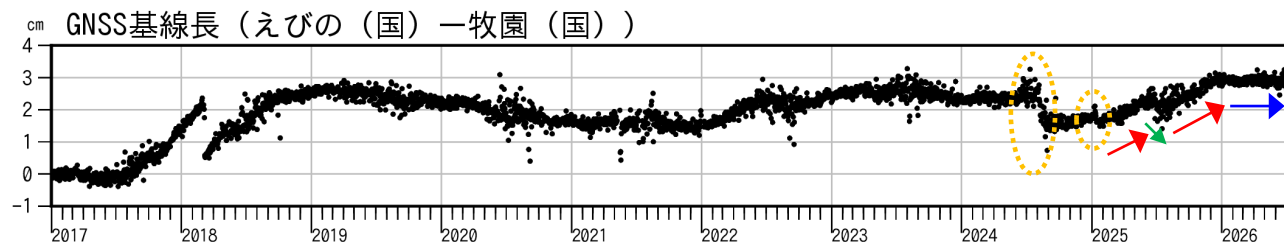
6月以降の主な状況

GNSS 霧島山を挟む一部の基線で、霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、2025年12月中旬頃からは停滞。同基線では2025年7月上旬に噴火活動に対応すると考えられるわずかな縮みがみられた(緑矢印)。新燃岳付近の地下における膨張を示すと考えられる基線の伸びは、2025年7月以降は認められない。



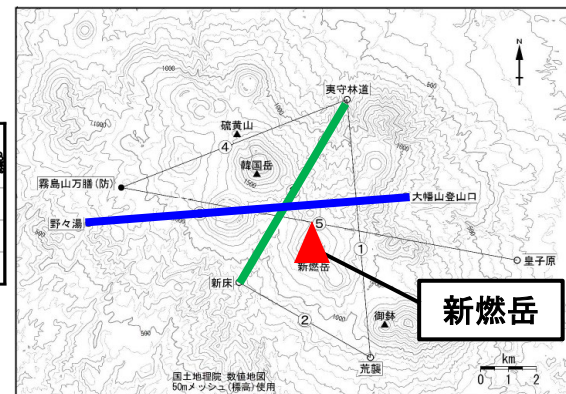
新燃岳付近 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月~2026年7月16日)

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す



霧島山 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月~2026年7月16日)

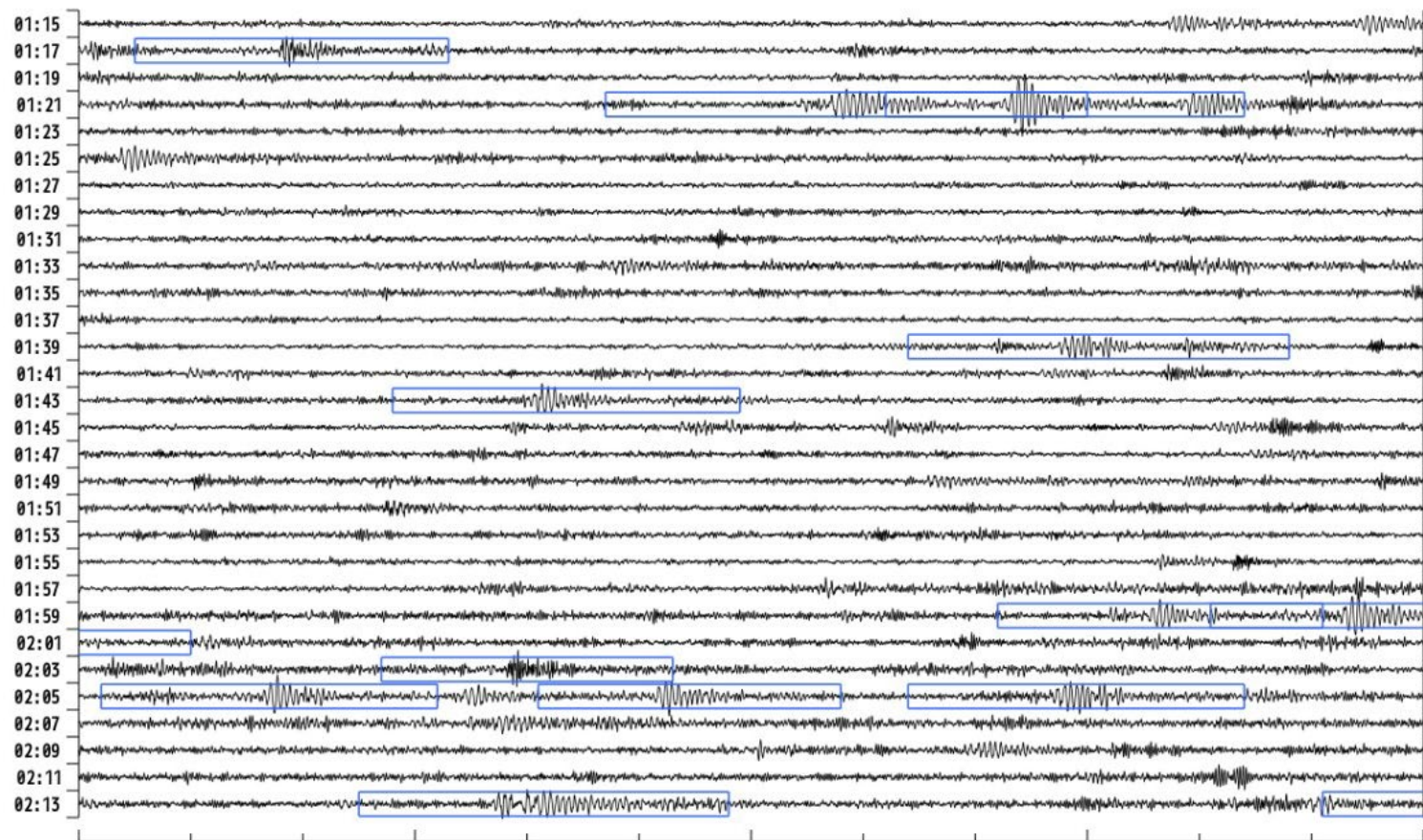
※橙色の破線は2024年8月8日、2025年1月13日の日向灘の地震による変動を示す



口永良部島 噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）（2026年7月17日15時30分発表）

主な状況

当初、火山性地震の増加と判断した7月9日の地震計の観測記録について精査を行ったところ、古岳付近の浅いところで発生した火山性地震ではないと判断。7月17日に噴火警戒レベル1へ引き下げ。



地震計の1時間波形（古岳北地震計上下成分：2026年7月9日01時15分～02時15分）